



～東北3県 元気なカラダづくり復興支援活動～  
子どもたちの心身健やかなカラダづくり応援プロジェクト  
**「すこやかカラダ大作戦 in ふくしま」**  
運動習慣定着への事後プログラム実施のご報告

小野薬品工業株式会社(本社:大阪市中央区、代表取締役社長:相良 暁、以下「小野薬品」)と特定非営利活動法人スポーツ・コミュニティ・アンド・インテリジェンス機構(事務局:神戸市 代表理事:氏家 啓喜、以下「SCIX」)は福島県相馬市において、元気なカラダづくりを推進する「すこやかカラダ大作戦 in ふくしま」を開催、3月18日のキックオフイベント以降、5月までに3回に渡って、運動習慣定着への事後プログラムを開催しました。

このプロジェクトは、糖尿病・がん領域に注力している小野薬品と、スポーツを通じた社会貢献に取り組む SCIX が中心となり、東北3県で課題となっている小児肥満の改善をはじめ、次世代を担う子どもの健康の推進と元気なカラダづくりを支援する取り組みです。キックオフイベントでは、アスリートと一緒に3つのスポーツを体験するとともに、生活習慣病の専門医による健康に関するセミナー、今年は地元食材を使った食育(炊き出し)も行いました。また事後プログラムとして、継続的に運動する機会を提供し、「スポーツやカラダを動かす楽しさ」を伝え、食生活や生活習慣に変化を与えていくことを目指して実施しました。

プロジェクト4年目の「すこやかカラダ大作戦 in ふくしま」では、3月18日に開催したキックオフイベントに加え、5月までに3回にわたって、さまざまなスポーツを体験する事後プログラムを開催し、今年は6～9歳の子どもたち延べ131名が参加しました。小児肥満改善の啓発を目的に、運動の楽しさに継続して触れることで、習慣化のきっかけを提供するとともに、保護者の方々に子どもたちの健やかな身体づくりに向けた食事などの生活習慣を考えていただくよう活動を行ってきました。最終回の事後プログラムに参加した児童の保護者からは、子どもたちの変化について「体を動かすのがあまり好きではなかったが、やり方を教えてもらったので前より興味を持つようになった。」、「陸上教室で走り方を習って、運動会でいつも4位だったのに今年は1位になれて、本人も大変喜んでいました。」、「家にいて空いている時間、外に出て縄跳びなどを積極的にするようになった。」といった感想が寄せられました。

また、事後プログラムの参加者アンケートでは、運動能力や体力に「良い変化があった」と答えた保護者は約8割、また子どもたちの運動習慣に「良い変化があった」と答えた保護者も約8割と多くの方が事後プログラムにより、子どもたちの運動能力や体力、そして日常の運動習慣に良い変化があったことを実感されています。

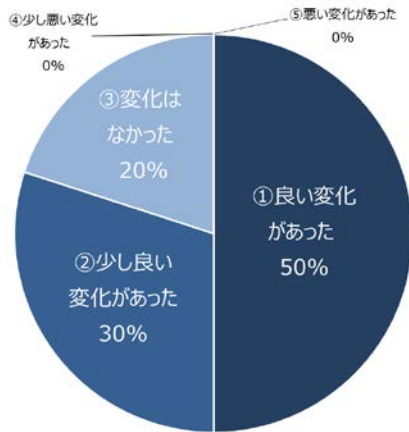
小野薬品とSCIXは来年以降も本取組を継続的に開催し、被災地域の子どもたちの元気なカラダづくりに貢献していきたいと考えています。

《参加者アンケート結果》

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| ◎子どもの運動習慣に「良い変化があった」 | 80% |
| ◎体を動かす遊びをする機会が「増えた」  | 90% |
| ◎運動能力や体力に「良い変化があった」  | 80% |
| ◎子どもの食事を「意識するようになった」 | 70% |

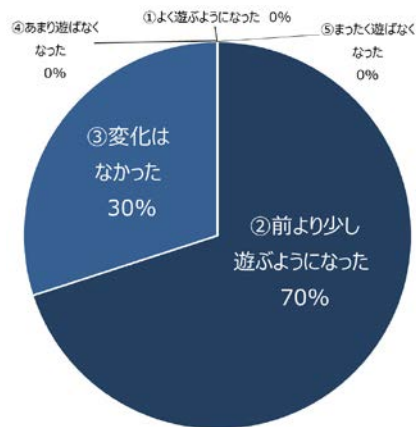
## アンケート結果

Q1. 子どもたちの日常の運動習慣に変化はありましたか？



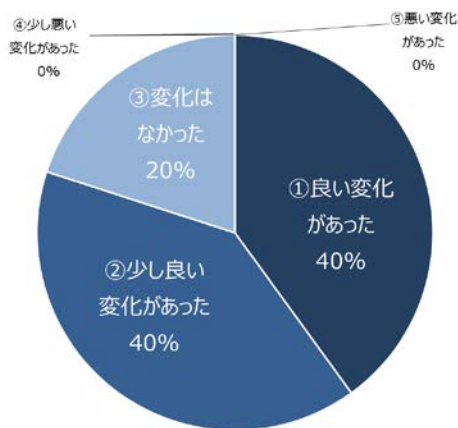
回答		人数
①	良い変化があった	5
②	少し良い変化があった	3
③	変化はなかった	2
④	少し悪い変化があった	0
⑤	悪い変化があった	0
合計		10

Q2. 子どもたちの外遊び等のカラダを動かす遊びに変化はありましたか？



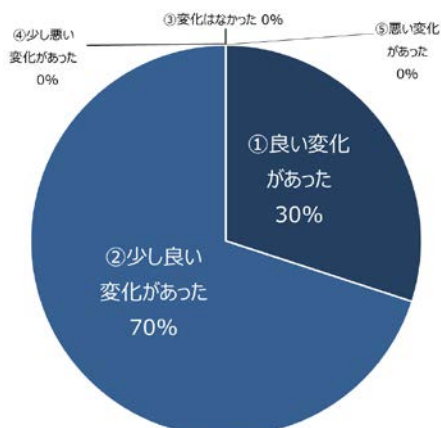
回答		人数
①	よく遊ぶようになった	0
②	前より少し遊ぶようになった	7
③	変化はなかった	3
④	あまり遊ばなくなった	0
⑤	まったく遊ばなくなった	0
合計		10

Q3. 子どもたちの運動能力や体力に変化はありましたか？



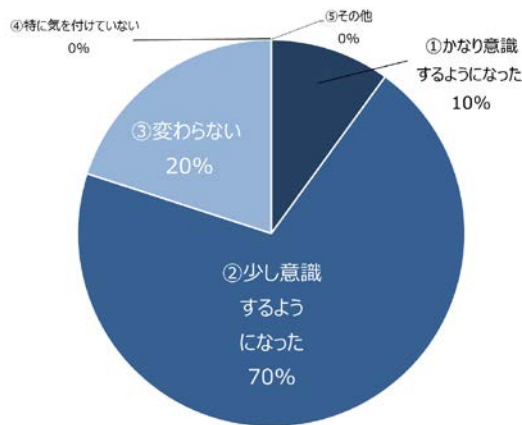
回答		人数
①	良い変化があった	4
②	少し良い変化があった	4
③	変化はなかった	2
④	少し悪い変化があった	0
⑤	悪い変化があった	0
合計		10

Q4. 子どもたちの日常行動の中で積極性に変化はありましたか？



回答		人数
①	良い変化があった	3
②	少し良い変化があった	7
③	変化はなかった	0
④	少し悪い変化があった	0
⑤	悪い変化があった	0
合計		10

Q5. 子どもたちの毎日の食事についてご家庭での意識は変わりましたか？



回答	人数
① かなり意識するようになった	1
② 少し意識するようになった	7
③ 変わらない	2
④ 特に気を付けていない	0
⑤ その他	0
合計	10

《「すこやかカラダ大作戦 in ふくしま」キックオフイベントおよび事後プログラム》

	日程	時間	テーマ	内容	講師	参加人数
Kick-Off スポーツアリーナ そうま	3月18日 (土)	10:00 ～ 14:00	スポーツやカラダを動かす 楽しさを伝える	ゲストアスリートパフォーマンス スポーツレクリエーション 保護者向け 健康セミナー	潮田玲子さん: バドミントン/第16回バドミントン選手権大会日本代表、 北京五輪・ロンドン五輪日本代表 福田正博さん: サッカー/元Jリーガー、元日本代表 外村哲也さん: トランポリン/北京五輪日本代表、第31回世界選手権日本代表 金森裕子さん: バドミントン/元日本ユニシス実業団 埴畑亮太さん: バドミントン/元日本ユニシス実業団 木幡美登里さん: トランポリン/世界年齢別選手権3度優勝	60名
第1回 相馬こども ドーム	3月31日 (土)	10:00 ～ 12:00	「走る」「跳ぶ」「投げる」の 基本を身に付けよう!	「走る」「跳ぶ」「投げる」を楽しく体験し、 運動を好きになってもらうメニュー	八幡賢司さん: 陸上110mハードル元日本代表、2013年日本選手権優勝 宮内 優さん: 陸上円盤投げ、ポプスレー-2010年バンクーバー日本代表 (陸上クラブチームPro-Kids 代表) 猿山力也さん: 陸上走り幅跳び8mジャンパー-2010年テヘラン室内陸上金メダリスト	26名
第2回 相馬こども ドーム	4月14日 (土)	10:00 ～ 12:00	短距離走&長距離走 リレーやマラソン給水体験に チャレンジしてみよう!	コーンをを使った短距離走の練習やリレー、 給水体験など、運動会に役立つ 練習メニューを盛り込んだ陸上教室。	弘山晴美さん: 元陸上女子中距離走・長距離走・マラソン選手 1996年アトランタ五輪、2000年シドニー五輪、2004年アテネ五輪の 長距離トラック日本代表として3大会連続出場 八幡賢司さん: 陸上110mハードル元日本代表 2013年日本選手権優勝 山田里美さん: 日本陸連強化スタッフ、国際陸上競技連盟Level I コーチ、 日本陸連公認コーチ・公認ジュニアコーチ(EVOLUTIONスタッフ)	26名
第3回 相馬こども ドーム	5月12日 (土)	10:00 ～ 12:00	ラグビーボールで遊ぼう!	SCIXオリジナルの「スペースボール」を 使って「だるまさんが転んだ」から 「スペースボール」を体験。 ボールゲームの楽しさを発見。	<SCIXコーチ陣> 武藤規夫さん: 神戸製鋼ラグビー部V7戦士 元関西代表 元7人制日本代表 高木 聡さん: 神戸製鋼コベルコスティーラーズ 近藤洋至さん: 神戸製鋼コベルコスティーラーズ 元U23日本代表 元関西代表 背川恭朗さん: SCIXラグビークラブ 関西を代表するシニアラグーマン	19名

【本取組への協力 関係者の声】

相馬教育委員会 生涯学習課 安齋 日向さんのコメント

今回のイベントに参加いただいた子どもたちは、様々な種目に触れたことで、スポーツの楽しさ、奥深さを知り、興味を持っていただけたと思います。肥満傾向が問題視されるなか、市といたしましては、対策・予防につながるよう、今後ともスポーツイベントなど、積極的に取り組んで参ります。

【参加児童 保護者へのアンケートより抜粋】

参加児童の保護者の感想

- 体を動かすのがあまり好きではなかったが、やり方を教えてもらったので前より興味を持つようになった。
- 陸上教室で走り方を習って、運動会でいつも4位だったのに今年は1位になれて、本人も大変喜んでいました。
- 家にいて空いている時間、外に出て縄跳びなどを積極的にするようになった。
- もともと体を動かすことが好きなのですが、今までやった事のないスポーツにもいろいろと興味を持ちました。
- 陸上教室で習ったことを、運動会でも意識して走るなど、得たものがあったように感じた。
- 楽しみながら身体を動かしている様子が日々感じられるようになった。
- 平日は忙しいが、土日などの休みには、前よりも外に出て遊ぶ機会が増えたように感じる。



- 陸上教室の走り方を教わる回に参加してから、走ることにとても自信につながったようだった。
- プロの選手に教えてもらったことがうれしかったようで、イキイキしていたのが印象的だった。
- 週2回のスポーツ関連の習い事以外でも、公園で遊ぶようになった。
- 一流の選手と触れ合えてアドバイスもらったことで、本人も自信がついたようです。
- バドミントンやラグビーなど、初めて取り組んだスポーツのまねごとを家でもやるようになった。

以下に、事後プログラム3回の取り組みをご報告いたします。

**【第1回 :3月31日】走る、飛ぶ、投げるの基本を身に付けよう！（陸上競技①）**

陸上 110mハードル元日本代表の八幡賢司さん、陸上円盤投げ・ボブスレー日本代表の宮内優さん、陸上走り幅跳び 2010年テヘラン室内陸上金メダリストの猿山力也さんを講師に迎え、26名の子どもたちが参加。「走る」「跳ぶ」「投げる」の基本となる動きを中心に、いろいろなジャンプを組み合わせながらマットに向かって楽しそうにジャンプしていました。また投げると“ヒュー”と音がする「ジャベポール」を使い、投げ方のレクチャーを受け、チーム戦になるとより熱が入り、会場がチーム毎に盛り上がりを見せました。



**【第2回：4月14日 短距離走&長距離走 ~リレーやマラソン給水体験~(陸上競技②)】**

長距離トラック元オリンピック日本代表の弘山晴美さん、陸上 110m ハードル元日本代表の八幡賢司さん、日本陸連強化スタッフの山田里美さんを講師に迎え、26名の子どもたちが春の運動会を前に様々な陸上メニューに挑戦。早く走る3つの基本動作を学びました。徒競走のスタートやリレーのバトンのパス練習では、習ったことを1つずつ意識しながら駆けっこに挑戦。チームでの応援や盛り上げも元気いっぱい。給水体験では、トラックを走りながらボトルを取る際、みんな真剣な表情を見せる一幕も。



### 【第3回：5月12日 スペースボール体験】

SCIX コーチ陣として武藤規夫さん、近藤洋至さん、背川恭朗さん、高木聡さんを迎え、楕円形の「スペースボール」を使った、リレーやゲーム形式の鬼ごっこ等のメニューを19名の子どもたちが体験。初めて触る、慣れない形のボールでも、少しずつコツをつかんで投げたり取ったり、一生懸命に取り組んでいました。途中保護者の方々も一緒に交じって元気いっぱい走り回り、みんなで盛り上がり汗を流しました。



## 「すこやかカラダ大作戦」プロジェクト概要

タイトル	: 復興支援活動「すこやかカラダ大作戦」
主催	: 「すこやかカラダ大作戦」プロジェクト実行委員会
参画	: 小野薬品工業株式会社 特定非営利活動法人スポーツ・コミュニティ・アンド・インテリジェンス機構 (SCIX)
実施実績	: 2015年／福島県大沼郡会津美里町(参加人数:延べ233名) 2016年／宮城県石巻市(参加人数:延べ381名) 2017年／岩手県大船渡市(参加人数:延べ207名) 2018年／福島県相馬市
参加対象	: 福島県、宮城県、岩手県の小学校低学年
実施内容	: スポーツ選手のパフォーマンス、スポーツリクリエーション、 生活習慣セミナー(保護者対象)など

※本プレスリリースは、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ、本町記者会、大阪化学工業記者クラブ、道修町薬業記者クラブ、福島県政記者クラブに配信しています。

本件に関する報道関係の皆様からのお問い合わせ先

「すこやかカラダ大作戦」プロジェクト実行委員会

広報担当 (株式会社サニーサイドアップ) 担当: 鈴江(070-3190-3660)、鶴菌、森井

TEL:03-6894-3200/FAX:03-5413-3050 Email: [sukoyakarada@ssu.co.jp](mailto:sukoyakarada@ssu.co.jp)